

日本一の里山 北摂里山 フィールドパビリオン

オフィシャルポータルガイド

ページ増量!
P7~

里山から 次世代に伝えたいこと

次世代を担う皆様が、
北摂里山の持つ「里山力」に
出会っていただければ幸いです。

人 | 環境 | 里山
と | と | と



▲公式HP



集い、学び、活かし、楽しむ里山

日本一の里山・北摂里山
フィールドパビリオン 実行委員会



ひょうごフィールドパビリオン

日本一の伝統的里山であり、
日本一の先進的里山でもある。
里山資源に恵まれ、
今なお活用されている里山文化地。



▼インタビュー



北摂三谷一東谷・中谷・西谷一地域の 日本一の里山文化

服部 保 Tamotsu Hattori

- 兵庫県立大学 名誉教授
- 北摂里山大学 学長
- 日本一の里山・北摂里山
フィールドパビリオン実行委員会 会長

大 阪府北部から兵庫県東南部の地域が北摂にあたりますが、その北摂の一角に東谷、中谷、西谷の三谷地域が存在します。北摂三谷地域は室町時代より木炭の生産が盛んな所でした。猪名川上流域にあたる東谷、中谷の里山ではクヌギを原木とする木炭が生産され、ひとくらは炭（池田炭・菊炭）として全国に名が知られていました。西谷の里山ではコナラを原木とする炭焼きや薪づくりが行われていたようです。

現在、ほとんどの里山は放置され、北摂一帯も例外ではありません。幸いなことに北摂三谷地域では里山が活用されています。東谷の黒川では現在も伝統の木炭が生産され続けており、継続性、歴史性より日本一の里山とよばれています。東谷のニュータウン周辺では里山放置林を市民の方々が日本一のまちな山（環境林、教育文化林）と

して再生させることに成功しています。中谷ではクヌギ林をシイタケ生産林として活用しています。最近西谷では里山放置林をチップ生産の場として木質エネルギー利用による里山再生が始まりました。以上のように、北摂三谷地域は日本一の伝統的里山と日本一の先進的里山という2枚の日本一の看板をもつ素晴らしい地域と言えます。

特異性が育む、 文化や生物多様性

北 摂三谷地域の特色はそれだけに留まりません。里山は上述のクヌギ、コナラだけではなく、ヤマザクラ、リョウブ、エゴノキといった多数の植物より構成されていますが、北摂三谷地域の里山にはナラガシワという変わったどんぐりの仲間も生育しています。ナラガシワは近世まで「かしは」とよばれていた樹木であり、古典に載せられている「かしは」はすべてナラガシワ

にあたります。ナラガシワの葉は神事に「葉盤」（ひらで、供物を盛る皿）として利用されました。住吉大社神代記（731年?）にはナラガシワの葉を集めるために、天皇が采女（うねめ、天皇の女官）を東谷の畦野（うねの）に派遣したことが記されています。平安時代には北摂三谷地域を含む摂津国より毎年何十万枚ものナラガシワの葉が京に送られた記録が延喜式に残されています。このナラガシワの葉は、ヒトに利用されただけではなく、ヒロオビミドリシジミという絶滅危惧種であり、また、たいへん美しいチョウの幼虫の食草にもなっています。ヒロオビミドリシジミは朝鮮半島から本州に分布し、東谷が分布の東限と群生地にあたっています。ナラガシワの葉の「葉盤」（ひらで）としての利用は、都を中心に広く行われていましたが、北摂三谷地域に限られる葉の特別な利用法が現在も残されています。

五月の節句に供えられる「ちまき」の原形はもちを「ち」(チガヤ)の葉で巻いた「茅巻・ちまき」です。原形の「茅巻」が全国に広がる中で、「茅巻」は様々な形態の「ちまき」へと分化しました。日本海側ではササ、太平洋側ではヨシ・マコモ・ススキ、九州ではダンチク・竹の皮、沖縄ではピロウ・ゲットウなど多数の植物の葉がもちを巻くのに用いられ、多様なちまきの食文化が誕生しました。中でも

特筆すべきものは、ナラガシワとヨシの2種類の葉で包んだ二重(ふたえ)の「ちまき」です。ヨシで巻く「ちまき」は前述したように、太平洋側一帯に点々と分布していました。しかし、ナラガシワとヨシのふたえの「ちまき」は全国で1地域、不思議なことに北摂三谷地域にだけに限られていました。本地域の天皇・采女とナラガシワの伝承、神事用のナラガシワの多量の採取などの歴史が

ナラガシワ+ヨシの「ちまき」を生み出したのではないのでしょうか。多量に採取するために、たくさんのナラガシワやその母体である里山を大事に育ててきました。そのことがヒロオビミドリシジミの多産にも繋がったのでしょう。

そして、元に戻りますが、昔も現在も里山資源に恵まれ、活用している北摂三谷地域は日本一の里山文化地と言えるでしょう。



日本一の里山 北摂里山 フィールドパビリオン

「**日本一の里山・北摂里山フィールドパビリオン**」は、「ひょうごフィールドパビリオン」の一環として、北摂里山地域(川西市東谷地区、猪名川町中谷地区、宝塚市西谷地区)を中心に展開されている「**北摂里山地域循環共生圏**」の取り組みを、多くの皆様に知っていただくことを目的としています。



▲原木栽培の椎茸

「日本一の里山・北摂里山フィールドパビリオン」は、**12のパビリオン(活動団体)**で構成されています。そのパビリオンが独自に開催する様々な「**SDGs体験型地域プログラム**」を通じて、北摂里山地域の魅力と課題を体感していただき、活動団体の取り組みに共感し発展的に活動に参画いただくことで、地域全体の活性化に繋がっていきたくと考えています。

この「**オフィシャルポータルガイド**」は、各活動団体のご紹介、代表者のインタビュー、サイトへのリンク等を通じて「SDGs体験型地域プログラム」

へ皆様をお連れする入り口(ポータル)です。是非日本一の里山の自然と文化、人々の活動する姿に触れてください。

入り口を開けるのは、**あなたです。**



▲サギソウ



▲オオムラサキ

主催 日本一の里山・北摂里山フィールドパビリオン実行委員会

構成団体

尼崎信用金庫／生活協同組合コープこうべ／非営利型株式会社 宝塚すみれ発電／一般社団法人 徳島地域エネルギー／能勢電鉄株式会社 鉄道事業部／宝塚市西谷自治会連合会／宝塚市西谷地区まちづくり協議会／一般社団法人 西谷自治振興／特定非営利活動法人西谷仕事人／川西市黒川自治会／特定非営利活動法人北摂里山文化保存会／国崎クリーンセンター啓発施設／宝塚市環境部／川西市市民環境部／三田市産業振興部／猪名川町地域振興部／兵庫県農林水産部林務課／兵庫県農林水産部流通戦略課／兵庫県農林水産部治山課／兵庫県環境部／兵庫県阪神北県民局県民躍動室／公益財団法人地球環境戦略研究機関 関西研究センター

共催 公益財団法人 ひょうご環境創造協会

開催期間 2025年4月13日から10月13日まで

お問い合わせ先 日本一の里山・北摂里山フィールドパビリオン事務局
✉ fp.office@hokuces.jp

お問い合わせフォーム▶



黒川地区の玄関口
黒川里山センター

▲インタビュー

川西市黒川里山センターは、兵庫県川西市黒川地区に位置し、避難所機能を備えた施設(2024年完成)と、廃校となった小学校を利用した施設です。小学校は北棟と南棟の2棟あり、北棟は1904年(明治37年)、南棟は1947年(昭和22年)に建てられた趣のある木造校舎で、周辺の里山環境と相まってノスタルジックな気分を味わうことができます。センターは、地域住民や地域の自然活動団体と協力し、持続可能な里山づくりを推進しています。地域資源を活用した環境教育を通じて次世代の意識も育成。里山の自然環境、地域文化と都市部との交流促進を目指した取り組みが行われています。

SDGs体験型地域プログラム

独自のプログラムを開催しています。黒川里山センターイベントサイトよりお申し込みください。

菊炭本家
今西家

▲インタビュー

菊炭本家・今西家は兵庫県川西市黒川地区で代々炭焼きを営み、日本の伝統的な炭焼きづくりを継承する重要な存在です。菊炭は茶道の炭灰として評価され、その美しい断面と高品質で知られています。今西家は炭焼き技術を守りつつ、黒川の里山環境を維持し、持続可能な炭焼きを实践。見学や体験イベントを通じて炭焼き文化を普及し、地域の環境教育活動にも貢献しています。さらに、炭焼きの為の伐採により木々の若返り更新がされ、その結果としてCO₂削減や生物多様性保全、循環型社会の実現化に寄与しています。

SDGs体験型地域プログラム

北摂里山文化保存会が主催するツアーで炭窯や台場くぬぎの見学が可能です。参加ご希望の方は北摂里山文化保存会のイベントサイトにお申し込みください。

台場クヌギを守る
北摂里山文化保存会

▲インタビュー

北摂里山文化保存会は、兵庫県川西市黒川地区で里山の保全と伝統文化の継承を目的に活動しています。特に、菊炭の原木である台場クヌギの保存を目指し、森林整備を行い、里山の持続可能な活用を推進しています。また、自然観察会や環境学習プログラムを開催し、地域住民や訪問者に里山の魅力や重要性を伝えています。里山と人々の共生を目指し、豊かな自然環境を未来へつなぐ活動を続け、地域の環境保全にも貢献しています。

SDGs体験型地域プログラム

北摂里山文化保存会が主催するツアー等独自プログラムを開催しています。参加ご希望の方は北摂里山文化保存会のイベントサイトにお申し込みください。

里山に生きる
原木栽培 伸びる茸園

▲インタビュー

伸びる茸園は兵庫県猪名川町に位置するしいたけ狩り体験施設で、自然に優しい循環型農業を実践しています。近隣の原木を活用したしいたけ栽培を通じ、森林資源の持続的な管理に貢献しており、地域の食文化や環境教育の場としても重要な役割を果たしています。SDGsの目標「つくる責任 つかう責任」や「陸の豊かさを守ろう」に貢献し、環境と共生する持続可能な里山づくりを目指して活動しています。地域住民と共に、環境保護と持続可能な農業の実践を推進しています。

SDGs体験型地域プログラム

「しいたけ狩りバーベキュー」のオプションとして、仲間長より伸びる茸園の取り組みのご紹介を希望者の皆さまに実施いたします。オプションご希望の方は事務局にお問い合わせください。

地域住民の交流の場
宝塚自然の家

▲インタビュー

宝塚自然の家は、兵庫県宝塚市にある自然体験施設で、自然とのふれあいや環境学習を提供しています。里山や森林、池を活用したプログラムが豊富で、特に子どもや家族向けに自然の大切さを学ぶ体験活動を実施。キャンプやハイキング、野外活動を通じて自然環境の保護や地域の生態系について学び、地域住民との交流や自然保護活動も行っています。

SDGs体験型地域プログラム

独自のプログラムをご用意しています。宝塚自然の家イベントサイトよりお申し込みください。

生物多様性の復元
松尾湿原
宝塚エコネット

▲インタビュー

宝塚エコネットは、兵庫県宝塚市を拠点に環境保全活動を推進する団体で、地域の自然環境保護やエコ活動を通じて持続可能な社会の実現を目指しています。リサイクル活動やエコイベント、環境教育を通じて地域住民の環境意識を高め、松尾湿原の保全活動などを行っています。これらの取り組みは、地域の自然や生態系を守り、SDGs達成に向けた貢献を目指すものです。

SDGs体験型地域プログラム

主に土曜日、不定期で活動を行なっています。体験参加ご希望の方は宝塚エコネットサイトの行事予定を参考に、サイト内のお問い合わせ窓口にご連絡ください。



■お申し込みには各団体の要領等に従い、ご参加時には係員の指示・注意事項を必ず守り、事故のないよう充分にご留意ください。■開催されるプログラムにおいて、発生した事故による参加者の怪我等含む損害及び参加者が第三者に与えた損害につきまして、日本一の里山・北摂里山フィールドパビリオン実行委員会（以下主催者）及びプログラム実施活動団体（以下主催団体）の故意又は過失に起因する場合を除き主催者・主催団体は一切の責任を負いません。保険等につきましては各団体にご確認ください。■開催内容は予告なく変更される場合があります。公式ホームページ等でご確認ください。



4



黒川・桜の森 菊炭友の会

▲インタビュー

菊炭友の会は、兵庫県川西市黒川地区を拠点に、伝統的な炭焼き文化の継承と里山保全活動を行う団体です。黒川は高品質な「菊炭」の産地として知られ、会員はクヌギ林の整備や「桜の森」内のエドヒガンなどの保護を行い、炭焼き技術を継承しています。里山整備体験会や炭焼体験会を開催し、また各種イベントに参加して地域住民や訪問者に里山の魅力を伝え、持続可能な里山づくりを目指しています。里山整備を通じて生物多様性を保護し、小学生の里山体験学習を実施することで環境への意識付けへのキッカケとなります。

SDGs体験型地域プログラム

毎週火曜日と第1&第3日曜日に定例活動を行なっています。見学・体験参加ご希望の方は事務局にお問い合わせください。



5



日本有数の自然 能勢妙見山ブナ守の会

▲インタビュー

能勢妙見山ブナ守の会は、大阪府と兵庫県にまたがる能勢妙見山のブナ林を保全し、自然環境の再生を目指す市民団体です。かつて広がっていたブナ林は環境変化や人の影響で減少しており、会は植樹や下草刈りなどの活動を行っています。定期的な観察・調査を通じて持続可能な森林づくりを推進し、地域住民や登山者への環境教育にも力を入れています。ブナ林は多様な生物の生息地であり、その維持・保護により気候変動緩和や生物多様性保全に貢献しています。また、地域住民との協力で森林管理や地域経済の活性化も目指しています。

SDGs体験型地域プログラム

独自の体験プログラムをご用意しています。能勢妙見山ブナ守の会体験申し込みサイトよりお申し込みください。



6



地域の環境教育 国崎クリーンセンター 啓発施設 ゆめほたる

▲インタビュー

国崎クリーンセンター啓発施設「ゆめほたる」は、兵庫県川西市にある環境学習施設で、ごみ処理やリサイクルの仕組みを学べる展示や体験プログラムを提供しています。施設内にはリサイクル工房や自然観察エリアもあり、持続可能な社会づくりを考える場として活用されています。また、ワークショップやイベントを通じて地域住民の環境意識を高め、SDGsの達成に向けた取り組みを行っています。リサイクルやエネルギー再利用を学び、資源循環の重要性を伝える場となっています。

SDGs体験型地域プログラム

独自のプログラムを開催しています。国崎クリーンセンター啓発施設ゆめほたるイベントサイトよりお申し込みください。



10



農業と再エネの 融合を実現 宝塚すみれ発電

▲インタビュー

非営利型株式会社宝塚すみれ発電は、兵庫県宝塚市で地域住民と協力し、再生可能エネルギーの導入と地域活性化を目指す発電会社です。2013年に設立され、市民発電所を運営、市民農園においてソーラーシェアリングを設置して、農業を助ける再エネの実現を目指しています。また売電収入の一部は地域の農林漁業発展に活用され、地域貢献を図っています。SDGs達成に向けて、地域資源を活用した環境負荷低減と地域経済活性化に取り組み、環境教育にも注力しています。

SDGs体験型地域プログラム

自然環境学習をベースにした農業体験プログラムを実施しています。宝塚すみれ発電プログラムサイトよりお申し込みください。



11



自然豊かな西谷 宝塚西谷の森公園

▲インタビュー

宝塚西谷の森公園は、兵庫県宝塚市に位置する自然豊かな公園で、ハイキングや森林浴に最適な場所です。広大な敷地は東の谷、西の谷、森林の3つのエリアに分かれ、自然を満喫しながら散歩できます。地域の環境保護活動や自然学習の場として、里山保全や森の整備が進められています。公園内では自然観察や環境教育プログラムが提供され、地域住民や訪問者の環境意識を高めています。また、地元農産物の活用や昔ながらの農作業を体験できるプログラムも行われ、持続可能な社会の実現に貢献しています。

SDGs体験型地域プログラム

独自のプログラムをご用意しています。宝塚西谷の森公園プログラムご案内サイトよりお申し込みください。



12



生物多様性の宝庫 丸山湿原 丸山湿原群保全の会

▲インタビュー

宝塚市の「丸山湿原群保全の会」は、丸山湿原の自然環境を守る活動を行う団体です。湿原の生態系保全を目的に、地元住民やボランティアと協力し、清掃、植生調査、保護活動を実施しています。また、自然観察会やイベントを通じて環境教育を行い、湿原の魅力を広めています。これらの取り組みはSDGsの「陸の豊かさを守ろう (Goal 15)」に貢献し、湿度・水質管理や在来植物の保護を通じて地域住民に環境保護の重要性を啓発しています。地域資源の持続可能な活用を目指し、地元経済にも貢献しています。

SDGs体験型地域プログラム

第2土曜日・第4日曜日の月2回定期活動を行なっています。体験参加ご希望の方は丸山湿原群保全の会サイトにお問い合わせください。



12 Field Pavilion

集い、学び、活かし、
楽しむ里山



里山に生きる
原木栽培
伸びる茸園

7

くろまんぶ
(林田隧道)

ふるさと館



9 [西谷] 松尾湿原

宝塚ダリア園

12

地域住民の交流の場
宝塚自然の家

8

生物多様性の復元
松尾湿原
宝塚エコネット

319

宝塚長谷牡丹園

68

道の駅いなわ

10

農業と再エネの融合を実現
宝塚すみれ発電

西谷ふれあい夢プラザ



猪名川町総合公園

多田銀銅山悠久の館

11

自然豊かな西谷
宝塚西谷の森公園

12

生物多様性の宝庫
丸山湿原
丸山湿原群保全の会



12 [西谷] 丸山湿原

道場 福知山線

宝塚北SIC

E1A

1



▲Googleマップ

黒川地区の玄関口
黒川里山センター

▼公式HP



2



▲Googleマップ

菊炭本家
今西家

▼公式HP



3



▲Googleマップ

台場クヌギを守る
北摂里山文化保存会

▼公式HP



4



▲Googleマップ

黒川・桜の森
菊炭友の会

▼公式HP



5



▲Googleマップ

日本有数の自然
能勢妙見山
ブナ守の会

▼公式HP



6



▲Googleマップ

地域の環境教育
国崎クリーンセンター
啓発施設 ゆめほたる

▼公式HP





7 ▲Googleマップ 里山に生きる 原木栽培 仲しい茸園 ▼公式HP	8 ▲Googleマップ 地域住民の交流の場 宝塚自然の家 ▼公式HP	9 ▲Googleマップ 生物多様性の復元 松尾湿原 宝塚エコネット ▼公式HP	10 ▲Googleマップ 農業と再エネの 融合を実現 宝塚すみれ発電 ▼公式HP	11 ▲Googleマップ 自然豊かな西谷 宝塚西谷の森公園 ▼公式HP	12 ▲Googleマップ 生物多様性の宝庫 丸山湿原 丸山湿原群保全の会 ▼公式HP
--	---	--	---	--	---

里山から
次世代に伝えたいこと

0

里山
||
山十ひと

里山から 次世代に伝えたいこと

里 山とは「田舎の山」でも「近くの山」でも「鄙びた山」でもありません。人と共生する山が「里山」です。人が共生しているのは里山に力があるから、里山の力を人が引き出しているからです。その里山力を引き出している第一線の人々（プレイヤー）の現場にお伺いし、コミュニケーションすることを目的として、日本一の里山・北摂里山フィールドパビリオンにZ世代の皆様をお迎えして、フィールドワークが開催されました。



詳細は、フィールドパビリオンHP
「ひょうごZ世代 里山・里海環境リーダー育成プログラム」事業に連携し、
里山フィールドワークを実施いたしました！ をご覧ください。▶



当 日は14名のZ世代の皆様とフィールドパビリオンの6つの拠点のメンバーが参加し、各拠点の現場を体感しながら和やかな交流と活発な意見交換が行われました。（当日の様様をYouTubeで公開しました）このイベントの中で次世代の皆様へ伝えたこと伝えなかったことをもっと多くの人に知っていただきたい。そして日本一の里山・北摂里山フィールドパビリオンにお越しいただき、北摂里山の持つポテンシャルを実感していただきたいと考え、「日本一の里山・北摂里山フィールドパビリオン」ポータルガイドに、新たにページを追加することといたしました。次世代を担う皆様へ、北摂里山の持つ「里山力」に出会っていただければ幸いです。

日本一の里山・北摂里山フィールドパビリオン実行委員会

里山から
次世代に伝えたいこと

1

里山力
×
文化

▼インタビュー



感覚が炭という見える形に 変わるのが面白い

菊炭本家 今西家
今西 良弘氏
Yoshihiro Imanishi

私

は25歳でちょうどZ世代にあたります。よくなぜ炭焼きやってるんですか?と聞かれます。同世代としては不思議なんでしょうね(笑)。

子供の頃から家族で炭を焼いていましたので、自然とこの道に入ったと思っています。しかし、嫌ならやっていないので、自分で気に入っていたんだと思いますし、今も気に入っています。

炭を焼いているといつも何かしら新しい発見があります。マニュアルはありません。見様見真似で経験から大体こうするというのはわかってきましたが、細かい部分になると勘と言いますか感覚になります。この感覚が成果という炭という見える形に変わるのが面白いと思います。

普通の仕事では感覚が形に変わるってあまりないんじゃないでしょうか?途中にマニュアルとか人とかシステムが介在しますよね。しかし、そのおかげで伝え易くなると思います。それがシステム化する現代社会なのかもしれません。でも私はそこが面白いと思っています。そういう感覚になれる人はいると思いますが、システム化している社会に入ってしまうと難しいかもしれません。どんな形であれ興味を持った人は現場に入ってやってみるのが大切だと思います。黒川には日本一の里山・北摂里山フィールドパビリオンの菊炭友の会が炭焼き体験プログラムを開催していますし、気になれば見て感じる事もできる街から近い里山です。

先日のフィールドワークでは「田舎暮らし大変でしょ」みたいなお話が出ていましたが、私的には「都会暮らし大変でしょ」と思います(笑)。田舎も都会もいいところと悪いところがあると思います。ぜひ北摂里山に遊びに来てください。日本一の里山・北摂里山フィールドパビリオンで色々な体験をして「田舎暮らし」のいいところを体験してくださいね。

里山から
次世代に伝えたいこと

2

里山力
×
保全

▼インタビュー



次世代にフィットした モチベーションを生み出す

台場クヌギの森／
NPO法人 北摂里山文化保存会
理事長 金渕 信一郎氏 (写真左)
Shinichiro Kanabuchi

最

近クヌギ林で下草を刈っていると、小学校行くか行かないかぐらいのお子さんに「あっおじさん自然破壊している!」と言われ、ショックを受けるとともに世代を感じました。

私が環境を意識した一番最初のきっかけは公害でした。私たちは「被害者」だったんですね。地球環境保護が叫ばれ「循環型」が標榜される今、私たちは「加害者」という当事者に变身しました。この「被害者」から「加害者」に変わったことで、なんとかしなければならないという責任意識が私たち所謂シニア世代には強いのではないのでしょうか。

その意識をベースに、今、自然環境保全是、シニア世代の「趣味」の活動としてケアされている部分が大いだと思います。里山は人間がケアしなければあっという間に放置林に変貌します。

北摂里山文化保存会の保全活動を次世代に引き継ぐためには、次世代にフィットしたモチベーションを生み出さなければなりません。

私たちは里山の必然性必要性を、自然と里山の違いや経済の関わりや里山の今の危機など、包括的にわかりやすく広範囲に伝えることが使命であると考えています。特に危機感という意味では、科学的な視点を持ち込みデータを収集して見える化していきたいと思っています。

次世代の皆様との接点を増やし、皆様の参画したいと思ってもらえるモチベーションを粘り強く探していきたいと思っています。DASH村的な関わり方も面白いなと個人的はと思っています。

私たちの活動を黒川、北摂里山の現地で体験していただき、自然保護の必要性を感じていただき、願わくば私たちの活動に参画していただきたいなと思います。クヌギ林でお待ちしております。



▼インタビュー



里山を損なう「鳥獣害」の 拡大に目を向けよう

台場クヌギの森／
国崎クリーンセンターゆめほたる

所長 関野 正氏

Tadashi Sekino

私の勤めている「ゆめほたる」は、兵庫県川西市、猪名川町、大阪府豊能町、能勢町の一般廃棄物処理施設である「国崎クリーンセンター」に併設された環境問題やごみ処理について楽しみながら学ぶ環境学習施設です。

環境学習に携わっていると、里山で喫緊の課題である「鳥獣害」に目を向けざるを得ません。都市部に住む人々にはなかなか共有できない問題だと思います。「鳥獣害」の拡大は里山のリソースを損なう大きな障害になると懸念しています。鳥獣害による農作物の被害のみならず、シカが下草を食べつくすことによって土壌侵食まで発生し、土砂崩れなどで下流域に大きな被害を及ぼします。

対策のためには、加害獣の実態についてのデータが必要です。現在、私たちは兵庫県立大学の研究者の調査のお手伝いをしています。国崎クリーンセンターの持つ里山は、約25ヘクタール。2019年～2020年に全域にカメラを設置しシカの生息状況を調査しました。結果は、1平方kmあたり50頭のシカが生息しているというものでした。森林研究・整備機構 森林整備センターの資料によると「シカが森林に被害を与えないような適正生息密度は1平方kmあたり2～3頭であり、10頭を超えるとその被害は甚大」とされています。大幅に超える数字ですよね。

こうした調査への協力と並行して、里山内に防護柵を設置し、対策の有無による植生の違いを比較できるようにしています。また地域のボランティア団体にも県立大学の調査用カメラ設置を呼び掛けて、北摂の里山全体でのシカの生息状況の把握に協力しようと考えています。

ゆめほたるでは、「ゆめほたる里山クラブ」に多くの里山保全ボランティアが集まり、里山をはじめとした環境保全に取り組みたいと熱心に参加されています。次世代の皆様も活動の中で一緒に学び、汗をかきませんか？緑深い北摂里山の中、ゆめほたるでお待ちしております。



里山から
次世代に伝えたいこと

3

里山力
×
夢

▼インタビュー



とりあえず現場に身を置いてみる

黒川ブドウ畑／
北摂ワイナリー株式会社
代表取締役 遠藤 薫氏
Kaoru Endo

昨 今は、何でもネットで検索できて、選択肢ばかりか回答や結果まで得られたような錯覚を覚えます。私がZ世代の年代だった頃は、インターネットというツールがファーストチョイスではなく、本を読んだり、人に聞いたり、とりあえずやってみたりという、選択肢の狭いアナログな自分探しの時代でした。

7年前にテレビでスイスの風光明媚なブドウ畑を観て、残りの人生ブドウ畑に居たい!と思い立ってからは、それを実現させるために、実際に、見てみたい場所を訪れる、会ってみたい人に会ってみる、やってみたいことを体験する、というアナログな試行錯誤をいくつも重ねてきました。

これからやってみたい事、やっていきたい事を語る人たちにもたくさん会ってきました。しかしながら、その事について調べて学び、必要ならば講習を受けたり資格を取ったりしているのに、なぜか現場に身を置かない人のなんと多いことか。何を知らなくても、何ができなくても、とりあえず現場に身を置いてみる。そうすれば、本当にやりたい事なのか、やるなら自分に何が 필요한のかが、シンプルにわかります。

どれほどネットやAIが発達し、あらゆる情報が得られたとしても、生きるステージが地球である限り、実際に行動して体験しないと、人生の本当の楽しさは味わえないんじゃないかな?と思います。

人間は、自分にできる事しかやりたいと思わないそうです。あなたのやりたい事が、日本一の里山・黒川や北摂里山フィールドパビリオンで見つかる気がしたら、ぜひその入り口を探しに来てください。お待ちしております。

里山から
次世代に伝えたいこと

4

里山力
×
教育



里山の安心とおおらかさは 子育てには非常に優れた環境

黒川里山センター／
NPOコクレオの森

代表理事 藤田 美保氏
Miho Fujita

今 回のツアーではステキな若い人たちに会い日本の未来も明るいと感じました。この若い人たちの未来社会が健全であるためには、次世代がつながる子ども達の存在が大きな意味を持っていると考えています。

お年寄りや大人ばかりの社会はやはり不健全ですよ。しかし、社会は行き過ぎた経済効率追求の中で世代の分断化、生活集団としての分断が進んでいるのではないのでしょうか。

子どもたちの育つ空間、場として里山は素晴らしいポテンシャルを持っていると思います。自然に囲まれています、決して危険な自然ではありません。土地に生き食を作り出す自立した社会は都市部にはない安心があります。そんな安心とおおらかさは子どもを育てる環境としてベストではないかもしれませんが、非常に優れた環境だと思います。

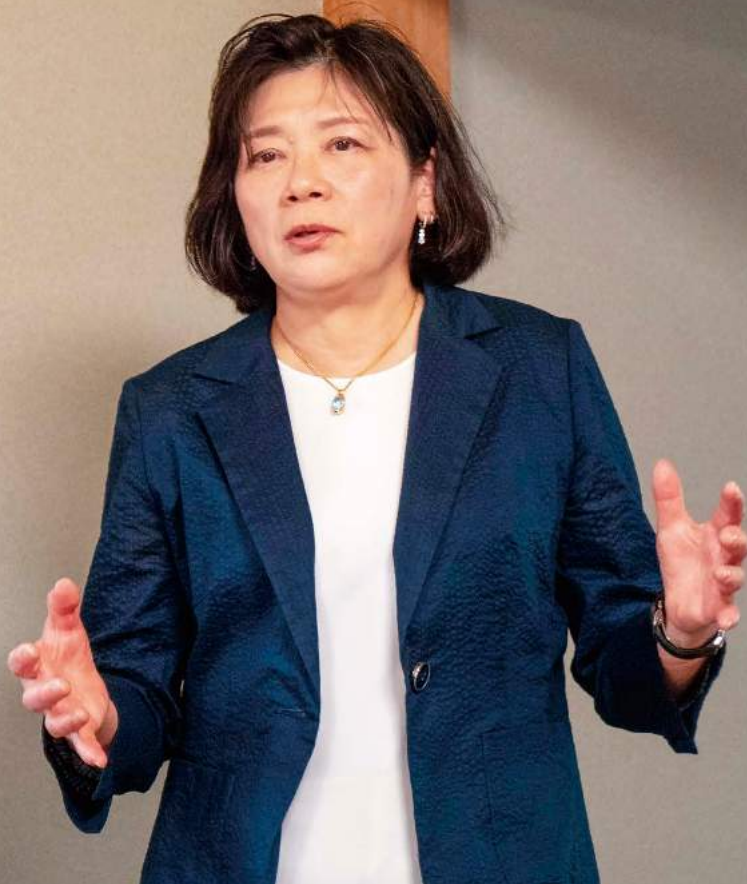
私たちは、里山で遊ぶ子どもたちが増え、里山で子どもを育てる人たちが増えることで、地域が健全に持続する、そのためのお手伝いをしています。子どもを育てるという意味では、学校の存在は欠かせません。私たちは猪名川町で自然を取り込んだカリキュラムを持つ小学校を設立しようと取り組んでいます。学校を中心に家族と一緒に自然の中で成長していく地域づくりを目指しています。

子どもたちの声が消えたまちは寂しいですよ。子どもたちの元気で大きな声が自然の中でいつも聞こえるまちを一緒に作りませんか？北摂里山での私たちの活動をぜひ体験して下さい。子どもたちの声を聞きながら

里山から
次世代に伝えたいこと

5

里山力
×
エネルギー
×
食



▼インタビュー



使う(食べる)責任は 作る責任を伴っている

ソーラーシェアリング市民農園/
株式会社 宝塚すみれ発電

代表取締役 井上 保子氏

Yasuko Inoue

私 たちが目指しているのは「食の安心、それを支える農業を守ること」です。一般の野立て太陽光発電所とよく混同されますが、あくまでも主は農業振興、継続です。

再エネ施設であるソーラーシェアリングを導入するとパネルの下は農業を行わなければならないという縛りがあります。この制約が、農業を継続させる一つの手法だと私たちは考えています。合わせて、再エネを農地で行うことで、電力供給による収入の多様化が農業の継続性を高めることになります。副次的ではありますが、パネルで33パーセントの遮光を実現できるので、農作業が快適になります。これ意外と重要です。

7月初めソーラーシェアリング推進連盟が主催するイベントに、千代田区キャンパスコンソーシアムや近畿大学などの学生が集い私も参加しました。前回の北摂里山のZ世代ツアーでも感じたことですが、やはり知らない議論にならないと、まあそれはそうですね。大学生は経験がやはり少ない、短い。経験してもらう場を私たちがしっかり作らないといけないと痛感しました。

次世代の皆様と共有したい認識は、「使う(食べる)責任は、作る責任を伴っている」ということ。食べることだけでなく作ることに目を向けて下さい。

ソーラーシェアリングは2013年に生まれた日本発祥の施設です。今や世界中が注目し懸命に取り組んでいますが、日本は周回遅れです。この現状を打破しソーラーシェアリングの普及による農業振興、日本の食の安心を実現すべく一緒に取り組みませんか？

西谷の地では、8基のソーラーシェアリングが生まれています。ぜひ現場へお越しください、明日の農業のために。

里山から
次世代に伝えたいこと

6

里山力
×
地域活性

▼インタビュー



地域と都市をゆるやかにつなぐ 役割を目指して

宝塚自然の家／
一般社団法人宝塚にしたに里山ラボ
代表理事 龍見 奈津子氏
Natsuko Tatsumi

宝 塚の西谷地域は、宝塚市北部に位置し市域の約2／3の面積に2,000人強の人口で、高齢化率49％の限界集落に近づく地域です。

魅力がないから、でしょうか？西谷に生まれ育った私にはそう思えません。大学から帰ってきて西谷の実家で働きながら地域活性の勉強会などに出席し仲間を少しずつ増やしていきました。それが今の宝塚にしたに里山ラボです。魅力を魅力としてちゃんと伝わるように伝えることにトライしています。伝えて行動に変えてもらうこと、それが重要だと考えています。

西谷地区まちづくり協議会と一緒に、地域に興味を持つ人や移住したい人と地域をつなぐ取り組みをしています。地域の文化や伝統や特性を、私たち世代の目線で、わかりやすく・リアルに伝えています。地域と都市をゆるやかにつなぐ“クラッチワーク”のような役割を目指しています。

また、もっと身近に気楽に西谷を経験していただく、家族連れで遊びながら西谷に触れていただくための拠点として宝塚自然の家の運営を担っています。子ども達にいい西谷の思い出を持って帰ってもらって、成長に合わせたイベントの中で西谷への興味を育ててもらえたら、こんな幸せことはありません。

しかし、やはり一番のネックは人財です。私たちの考えることはどちらかというと身内の発想になります。外部の目、視点がなければいいものはできないと感じています。現状の改善にしても内部の思考では限界があります。今回Z世代の皆様と話してみて、可能性の宝庫だなあと改めて感じました。

日本一の里山・北摂里山フィールドパビリオンに是非お越しください。西谷は北摂里山の中でも広々とした田園が魅力です。広い青空の下、皆様のフレッシュな目で西谷を見てくださいね。お話しするのを楽しみにしています。



北摂里山 地域循環共生圏

北摂里山地域循環共生圏は、日本一の里山 黒川地区をはじめとする北摂里山地域(川西市東谷地区、猪名川町中谷地区、宝塚市西谷地区)において、自然環境と人間社会が調和し、持続可能な地域づくりを目指す取り組みです。この地域循環共生圏は、環境保全、地域経済の活性化、住民福祉の向上を一体的に進めることを目標としています。

北摂地域の 特徴

宝塚北部、猪名川町、川西北部に広がる北摂三谷地域は、都市圏に近接しつつも古くから伝わる豊かな自然を継続させています。特に、里山が持つ生態系や景観は、都市住民にとって癒しや学びの場となると同時に、地域経済に新たな価値を提供するポテンシャルを秘めています。

北摂里山 地域循環共生圏

目的

北摂里山地域循環共生圏では以下を目指しています。

1.自然と共生する暮らしの実現

- 里山や森林、農地の保全と活用を進め、自然資源の持続的な利用を目指す。
- 環境への負荷を抑えたエネルギー循環(再生可能エネルギーの活用など)。

2.地域経済の活性化

- 地元産の木材や農産物を使った産業の振興。
- 地域内の資源を循環させることで経済の自立性を高める。

3.生物多様性の保全

- 外来種の侵入を抑え、在来種の生息環境を保全。
- 生態系サービス(自然から得られる恩恵)の維持と活用。

4.住民の交流と学びの場の提供

- 地域住民や訪問者が自然に触れ、学べる場を提供する。
- 地域コミュニティの強化を図る。

5.気候変動への適応

- 地域ごとの特性を活かした防災・減災の取り組み。
- 森林吸収源としての役割を活用したCO₂削減。

背景

日本 정부가 提唱する「地域循環共生圏」の考え方を基盤にしています。地域循環共生圏とは、地域内の自然資源やエネルギー、人材を循環させ、地域ごとに異なる資源や特性を活かしながら、他地域とも補完関係を築くという持続可能な地域社会のモデルです。

北摂地域は、以下のような特徴を持つことから、この理念に適した地域とされています。

- 都市部(大阪・神戸など)に隣接しながらも、豊かな自然環境(里山や森林)を有する。
- 伝統的な農業・林業が営まれてきた歴史と文化がある。
- 都市と自然が近接し、調和の可能性を秘めている。

具体的な 取り組み

1.再生可能エネルギーの利用

- 木質バイオマスエネルギーや営農型太陽光発電(ソーラシェアリング)を導入し、地域内でのエネルギー循環を推進。

2.里山の保全活動

- 地域住民やボランティアによる植樹、間伐、下草刈り。
- 放置されている里山を再生し、地域の財産として活用。

3.地域産品の振興

- 地元産木材を使った商品や建材の開発。
- 有機農業や地産地消を通じた食文化の発信。

4.エコツーリズムの展開

- 里山を歩くガイドツアーや、自然観察イベントを開催。
- 都市住民との交流を通じた地域の魅力発信。

5.教育と啓発

- 環境教育プログラムの実施(子どもや大人向け)。
- 里山文化や持続可能な社会づくりに関する学びの場を提供。

環境保全と地域活性化が 両立する未来へ

北摂里山地域循環共生圏の取り組みは、日本一の里山の豊かな地域資源をベースに、地域ごとの特色を活かした「地域づくり」の理想的なモデルとなり、環境保全と地域活性化が両立する未来を目指しています。